

単元名	季節の言葉3	配当時間	2時間
単元の目標	(1) 語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。 (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。 (3) 季節を表す語彙を豊かにし、表現の意図に応じて言葉を吟味しながら俳句や短歌を作ろうとする。		

標準的な展開例	06010208_001
【教材名】秋深し (P. 130～P. 131)	

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 秋から冬へと向かっていく暦を表す言葉やその意味を知り、言葉のもつ語感や使い方に対する感覚に関心をもつ。 ★秋から冬へと向かう季節を表す言葉やその意味を知り、自分が感じる秋について俳句や短歌に表そう。</p> <ul style="list-style-type: none">○「秋」を感じる言葉を出し合う。<ul style="list-style-type: none">・二十四節気の「秋」を示す言葉の意味を、解説を読んで確かめる。○教科書の短歌や俳句を声に出して読み、おおまかな意味を捉える。 <p>2 自分が感じる秋について、俳句や短歌に表す。</p> <ul style="list-style-type: none">○俳句や短歌の決まりを確認する。○自分の地域で見つけた「秋」が表れるような言葉を選んで俳句や短歌を作る。 <p>○創作した俳句や短歌を交流し、学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none">・五感を働かせて、秋を感じるものを発表させる。・教科書 (P. 130～131) の写真を使い、その言葉へのイメージをもたせる。 <ul style="list-style-type: none">・五・七・五 (・七・七) の十七 (三十一) 音から成ることを押さえる。・前時に挙げたものの中から題材を取り上げ、俳句や短歌に表すようにさせる。・画用紙等に清書させ、掲示してもよい。 <p>【評】俳句や短歌を作る活動を通して、季節を表す言葉に関心を持ち、使う言葉を吟味しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】俳句や短歌を作る活動を通して、伝えたいことを明確にする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】俳句や短歌を作る活動を通して、語感や言葉の使い方の「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none">・「秋」を感じる表現の仕方に着目して、助言や感想を伝え合わせる。

【 備 考 】